

サフラン酒本舗

濃厚な舌触りと花の香り、甘味のあるサフラン酒は、1930年代には日本全国で人気の飲料となり、海外ではハワイでも人気を博しました。最近では、主に長岡地区で見つける事ができます。お酒やビールに代わる甘くて飲みやすいお酒です。リカーやビールの代わりに、甘くて飲みやすいお酒です。サフラン酒本舗の建設は明治時代(1868-1912)に始まり、大正時代(1912-1926)まで続きました。創業者の吉澤仁太郎は、装飾やデザインがカラフルなことで知られていました。

酒蔵は、江戸時代(1603-1867)に発達した漆喰アートの顕著な例です。軒には龍をモチーフにした装飾が施され、窓のシャッターには、*kote-e*と呼ばれる手の込んだ漆喰の浮き彫りが施されています。建物の外壁にこのような個性的な作品は、日本では珍しく、制作費が高額だったためかと思われれます。

庭園には、隣接する長野県の浅間山から運ばれてきた赤茶色の火山岩を取り入れています。蔵や本醸造の建物の内部の梁や枠、戸口の多くは、通常は高価なキャビネットに使われるような高級木材で作られています。

鍍絵本館2階には、サフランワインの歴史を紹介するミニミュージアムがあります。展示されているのは、1930年代のサフランワイン全盛期の雑誌やポスターなどの様々な作品、関連する生活用品など。また、吉澤家の様子や長年の施設運営の様子なども紹介されています。